

白鷹町は『紅花』をふるさと名物として応援します

3月29日、町は『紅花』をふるさと名物として応援する「ふるさと名物応援宣言」を行いました。

「ふるさと名物応援宣言」は、市町村において、地域を挙げて支援を行なう「ふるさと名物」を特定し、積極的な情報発信をしていくもの。町では、生産量日本一である紅花をふるさと名物として宣言し、町内外へ情報をつくる町」として、紅花生産者への支援、紅花の商品開発、ブランド化等への環境整備を進め、交流人口の増大を図ります。

パレス松風で行われた記者会見には紅花娘が初登場し、佐藤町長が「今後も日本一の紅花生産地であるために、作付面積の



紅花染めの手ぬぐいをかぶり、かすりに前掛け、たすき掛け姿の紅花娘。白鷹紅花まつりなどに合わせ、衣装を着ての体験イベント等を検討していく



紅花入りの深山和紙で作られた行灯(あんどん)。町内の飲食店などに飾られ、「日本の紅(あか)をつくる町」をアピールしていく

維持、生産者への支援、紅花生産者の新規開拓などに力を入れ、より多くのお客様に訪れていただける町を目指し、『紅花』をふるさと名物として応援していく」と宣言。

「生産」と「観光」を両輪とし、紅花産業を柱にした地域おこしが加速していきます。

町に新たな体育施設

白鷹町民武道館が完成



平成26年9月より敷地造成工事に着手し、平成27年6月に武道館建築及びその外構整備に取り組んできた白鷹町民武道館が、3月23日に完成しました。

施設は鉄筋コンクリート造の平屋建てで、延べ床面積906㎡。武道場2面のほか、談話室2部屋、トレーニング室、管理室などを備えています。

3月24日には武道館の完成を祝う竣工式が行われ、町関係者や設計・施工業者など約50人が出席。安全祈願に続いて各関係者への感謝状贈呈、町柔道会と町剣友会による演舞が披露されました。



1. 真新しい施設に、練習する手にも力が入る 2. 長く安全に使われ続けていくことを祈る



また、式の後は白鷹中学校柔道部員及び剣道部員による使い始めが行われ、白鷹中学校剣道部で副部長を務める五十嵐悠哉くん(荒砥)は「新しい練習環境に気持ちが高まっている」と意気込みました。